

## 幼児教育研究部 第2回研修会 教諭班

### 講演会

講師 静岡県立大学短期大学部 永倉 みゆき 氏

演題 今、子どもたちに育みたい資質・能力

～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を捉えた遊びの中にある資質・能力とは～

#### ○「幼稚園教育において育みたい資質・能力」とは

- ・「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理されている。
- ・幼稚園修了時の具体的な姿として、『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』が示されている。
- ・ここに示す資質・能力は到達目標ではなく、教師が指導を行う際に考慮するものである。

#### ○実践事例より (牧之原市立地頭方幼稚園)

◎遊びは、「子ども発！大人経由！子ども着！」(菅沼恭子先生の言葉)

- ・子どもの遊ぶ姿から、教師は遊びが発展するように環境構成や援助をすることで、遊びが継続、発展していく。
- ・教師自身も楽しみながら遊びを展開させていくことで、新しい保育観が生まれる。
- ・大人は先を考えて行動してしまいがちであるが、子どもは今を考えている。遊びや生活を子どもと共につくる姿勢をもつことが大切である。

↓

「子どもの想定外な行動を面白いがる姿勢」「大人からも提案していく姿勢」と共に「臨機応変に自分の計画を変えていく姿勢」が必要である。

#### ○講話を受けて(自己課題や方策、今後への取り組み方について)

- ・教師の言葉掛けや手助けが多くなってしまいがちである。子どもの興味・関心を探り、つぶやきや発見を大切にしていきたい。そして、子ども発の遊びを共に楽しみ、遊びが充実するように環境・援助を工夫していきたい。
- ・“大人は先取りをして失敗する”との言葉が、保育を振り返る中で、重なる部分があった。大人はあくまでも『経由地点』であることを意識し、子どもの思いを優先することや、見守る時間を意図的につくるようにしていきたい。
- ・臨機応変に対応することの大切さを分かっているが、教師の思いが強くなってしまっていることがある。子どもの主体性を大切にし、子どもの表れからどんな学びにつながるのかをじっくりと見極めて関わっていくようにしたい。
- ・想定外こそチャンスだと考え、子ども一人一人に寄り添い、“驚く心”、“ひきつけられる心”をもって関わってしていきたい。

